

2015 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日 2016 年 3 月 7 日	
氏名：	及川 千夏	実施国：ルワンダ	協力活動・調査研究
活動名称	東部ルワンダにおけるコミュニティーベースの健康保険加入に関連する要因研究：世帯間と世帯内の加入パターンに着目して		
実施期間	2015 年 10 月～2 月（調査結果の分析を行った期間も含め）		
(1) 申請した動機			
<p>本活動の実施を希望するに至った背景として、青年海外協力隊として村落部に赴任していた際に気付いた、村人と行政官間での健康保険に対する考え方のギャップがあった。</p> <p>本活動で着目したルワンダの健康保険制度は、その急速な拡大において他国より高い評価を受けてきたが、近年の加入率は低下傾向にあった。青年海外協力隊として村落部で生活する中で、私は加入率低下の要因に興味を持ち、村人に意見を伺った。彼らからは「高いから加入できない」「加入しても医療機関での待ち時間が長いので加入しない」等の意見が挙げられたが、一方で地方行政官に話を伺うと「村人のマインドセットに問題がある」「保険の重要性が理解されていない」などの意見が挙げられ、村人と行政官の間には大きなギャップがあることに気付いた。</p> <p>また上記の保険加入率の低下に加え、一つの世帯内で保険加入者と未加入者が混在している現状に気付いた。他国で行われた保険に関する研究では、このような世帯内での加入者の混在は、未加入者の医療受診行動に負の影響を与えるという結果が出されていた。</p> <p>以上のことから、調査研究により保険対象者となる村人の選好を捉え、保険加入率低下に関連する要因と、世帯内の保険加入者混在による医療受診行動への影響を探究する必要性を感じ、本活動の実施を希望するに至った。</p>			
(2) 活動内容概要			
<p>【活動目的】</p> <p>①ルワンダ東部県の調査対象地域の保険加入パターンの分布を明らかにすること ②保険の加入パターンに関連する要因を明らかにすること ③一部加入世帯の加入者・未加入者の治療選択を明らかにすること</p> <p>【活動内容】</p> <p>①東部ルワンダ・ガチボ郡において 392 世帯を対象とした質問紙インタビューの実施 ②12 名を対象としたキーインフォーマントインタビューの実施</p> <p>【結果】</p> <p>①世帯の保険加入パターン（全員加入している・一部メンバーのみ加入している・誰も加入していない）と関連する要因は、世帯の社会経済レベル・小規模貯金グループの世帯主の参加有無・保険料に対する満足感の有無・公的保健施設のスタッフの態度が差別的でないことに対する満足感の有無であった。 ②保険加入者が混在している世帯加入している世帯においては、世帯主の配偶者と過去 4 週間に病気のケースがあった個人がより保険に加入していた。 ③一部メンバーのみ保険に加入している世帯の治療希求行動では、保険加入者は有意に多く公的保健施設を利用し、未加入者は薬局と伝統医療を利用しており、また支払った治療費の額は保険未加入者が有意に高かった。</p> <p>【提言】</p> <p>保険加入パターンは世帯の社会経済レベルと関連があり、世帯の社会経済レベルに則した保険料の再設定が必要であると示唆された。また対象地域における保険加入パターンには村ごとに異なっており、村レベルの保険促進活動が効果的であると考えられる。上記①の結果も踏まえ、村レベルの保険加入促進活動では、一部メンバーのみ加入している世帯を対象とした小規模貯金グループへの参加促進と、保険加入に対する理解を促進する活動を含めることが効果的であると示唆された。公的保健施設のスタッフの態度が差別的でないことに対する満足感の有無が、保険加入パターンに関連していたことを考慮すると、保健医療サービスの質の向上も保険加入率向上に貢献し得ると考えられる。</p>			

(3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等

●調査研究を通じて●

[成果]

・調査で得たデータを基に分析を行い、調査目的であった世帯の保険加入パターンとの関連要因を明らかにすることができた

[苦勞した点]

・ルワンダにおいて研究実施許可を得るための倫理審査通過書・郡庁からの許可書の取得に時間を要し、調査期間が予定していた3か月より大幅に少なくなってしまった

・想定していた保険加入状況と対象地域の実情が異なり、インタビュー対象者のサンプリングの過程に時間を要した

・調査アシスタントを三名雇用したが、個々人の特質に合わせた指導・マネジメントに苦勞した

[反省点]

・計画初期よりも予想以上に出費が増え、経費が増えてしまった

●調査研究を終えて●

・2月27日に岡山県にて行われた国際保健医療学会において示説発表を行った

(4) 今後のプラン

・調査内容を雑誌に投稿する(3月中に実施予定)

・今後の進路として、4月より開発コンサルタント会社にて勤務予定

・本研究を通じて得たフィールド調査とデータ分析の経験は、今後携わせていただく評価業務に活かしていきたい。そして開発途上国の社会発展に少しでも役立てるよういっそう知識・スキル・経験を身に付けていきたい。